

中央銀行の独立とスウェーデンクローナ

またやってくれた。トルコのエルドアン大統領だ。中央銀行の副総裁を昨日首にした。これで何人目になるのか。この2か月だけでも中央銀行の幹部は3人目だ。総裁一人、副総裁2人。

その度にトルコリラは大きく売られ、今回も同様に売られたが、前回総裁が首になったときほどではなかった。ドルリラは昨日一時1000ポイント近く下落したが、半値近く戻し、直近では8.4390近辺で推移している。

インフレ率を低下させるには利下げが必要との認識を持つ大統領にとって、目標とする一けた台のインフレ率を達成するには、現行の19%の政策金利は我慢できない。それで自分と同じ認識を持つ総裁に替えたわけだが、なかなか利下げを実行できない。そのフラストレーションが今回の副総裁の首に繋がった。

政府からは独立して金融政策の決定を行うという中央銀行の独立は、現在では先進国の間では広く受け入れられ制度化している。新興国の間でも独立を謳っている国は少なくない。

だが実際に独立が確保されているかと言うと危うい。トルコには中央銀行の独立は実質的にはない。大統領が強権で形骸化させている。先進国でも時にはトランプ大統領のように中銀に介入する姿勢を見せることは珍しくはない。日本でも前日銀総裁の時代にあった。程度の差だ。

中国では制度として中央銀行の独立はない。中央銀行は国务院(内閣)の傘下にある一機関だからだ。

その点では中央銀行の独立が損なわれているからトルコを非難したり、リラ売りの要因にするのはずれた議論になる。問題はインフレ率の高さ、経常収支の赤字、対外負債のファイナンスなどの課題に対する政策対応の妥当性だ。そこが不十分だからリラは売られる。

昨日の市場では米国の長期金利が低下(10年国債のイールドが1.56%)したことなどからドル指数が低下した。全般的に多くの通貨に対してドルが売られた。これは最近の傾向でもある。

中でも目立つ通貨の一つはスウェーデンクローナ（SKE）だ。ノルウェークローネ（NOK）との対比で見るとはっきりするが、先週の終わり頃から NOK/SKE の為替レートは 1 を切ってきた。つまり SKE が NOK を上回ってきた。NOK/SKE は 3 月中旬頃から 1 を超えて推移していた。そのトレンドが逆転したのだ。直近ではドル/SKE は 8.2495、ドル/NOK は 8.2955 水準で推移している。

SKE が堅調なのは、先月中央銀行(リクスバンク)が政策金利をゼロ%で据え置いたが、最近の経済指標が良いこと(4 月の PMI は過去最高水準)などから先行き利上げも視野に入ることがある。リクスバンクは欧州諸国の中でマイナス金利をいち早く導入したが、そこからいち早く脱出した。先進的な中央銀行としてインフレターゲットの導入などを積極的に取り入れた。中央銀行の独立の点では最も確立している中銀の一つだ。パンデミックの波が再度襲わない限り、SKE 優位のトレンドは続くのではないか。